

# 生涯教育研修活動報告書

病理検査研究班

- 1 実施日時：2024年2月2日 19時00分～21時00分
- 2 会場：浦和コミュニティセンター 第15集会室 教科・点数：基礎教科-20点
- 3 主題：病理検査におけるインシデント ～事故を未然に防ぐために～
- 4 講師：小澤 英樹（株式会社 ピーシーエルジャパン 病理・細胞診センター）  
岡村 卓哉（獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科）  
渡邊 俊宏（株式会社 アムル 上尾中央臨床検査所）
- 5 協賛：なし
- 6 参加人数：会員54名 賛助会員0名 非会員2名
- 7 出席した研究班班員：森田繁、高橋俊介、小島朋子、今村尚貴、遠山人成、松本祐弥、三鍋慎也

## 8 研修内容の概要・感想など

今回は病理検査におけるインシデントをテーマに開催した。

小澤氏は、インシデントの基礎と分析・運用について解説した。「1件の重大事故の背後には29件の軽微な事故があり、その背景には300件のインシデントが潜んでいる」というハインリッヒの法則を挙げ、インシデントを収集・分析することが重大事故の回避につながると説明した。また、インシデント報告数が上がらない現状に対し、報告を増やす工夫についても提示した。

岡村氏は、インシデント対策と事例について病院検査室の立場から解説した。システム化によるヒューマンエラーの回避や、切り出し順についてコンタミネーションが起こりにくいものを先に行い、細かくバラバラになりやすいものを後に行うといった具体例を挙げて説明した。

渡邊氏は、インシデント対策と事例について臨床検査所の立場から解説した。インシデントレポート用の書式を作業工程に分けた形式で記載することにより、発生場所や発見場所で分析することができ、対策に繋げやすくなるとのことであった。また、人間は「選ぶ」行為をすると間違いが起こりやすくなるものであるため、業務を行なっていく上で「選ばない」仕組みを考えるとよいとのことであった。例えば「ラベルを貼る作業をしな

くてもよい環境をつくる」「一対一の環境をつくる」等である。

医療安全に関する講演は幾度となく聞いているが、今回は病理検査に直結した具体例や、他とは異なる切り口での解説を聞くことができ、安全対策について新たな意識付けができたと思われた。

提出日；2024年2月6日

文責：三鍋慎也